

イオラニ、プナホウへの道



ドクター高橋俊明
心理学博士／ドクター高橋塾塾長
宮崎県出身。東京教育大理学部生物
学科卒業。東京教育大教育学部心理
学科で修士号取得、ハワイ大心理学
部で博士号取得。1968年に川崎市、
69年に文京区、そして77年にホノ
ルルに塾を設立。2019年はハナハウオリ校に1人、プナ
ホウ校に61人、イオラニ校に52人合格。平均合格率は
67.7%。

Web: www.juku-in-hawaii.com
☎808-949-3366 / 808-679-5612 (日本語)

【その216】10月19日のSSAT対策

今年度最初のSSAT (5年生から7年生はMiddle Level SSAT、8年生から10年生がUpper Level SSAT) が、9週間後の10月19日に行われます。そこで今回は、この試験を受ける上で注意すべきことを列記します。

申し込み方法

申し込みは、www.ssat.org に生徒のアカウントを作成することから始めます。そのサイト上で、「何月、どこで試験を受けるか、結果をどの志望校に送るか、あるいは送らないか」などを選んでいきます。試験の結果 (SSAT 得点) は、来年の1月末までに志望校に送れば良いので、いくつか受けた中から一番良いものだけを後日送ることも可能です。支払いも、そのアカウント上で行います。

試験内容

SSATは、作文 (30分)、数学 (パート1が30分で25問、休みを挟んでパート2が30分25問、合計60分50問)、語彙 (30分60問)、読解 (40分40問) から構成されています。心しておかなければならないのは、作文はSSAT本社

で採点されるのではなく、そのコピーが英数の得点と一緒に、指定された学校のアドミッション・オフィスに送られるということです。プナホウ校もイオラニ校もSSATの作文が審査の対象になるとは明記していません。両校とも、独自の作文テストを審査の対象にしています。その理由の一つとして考えられるのは、SSATを一回しか受けない生徒と複数回受けた生徒で、送られてくる作文の枚数が異なり、平等な評価ができないからかもしれません。しかし、SSATの作文が審査官の目に触れるものであることを忘れてはいけません。ただ、Middle Level SSATもUpper Level SSATも、約3時間にわたる長丁場なので、作文ですべてのエネルギーを使い果たさないことが大事です。

実際にあった例ですが、8年生の女子生徒は、冒頭に出たSSATの作文に、持てる力を全部注ぎ、その後行われた英数の試験では疲れが出て、ひどい成績になりました。そんなことから、作文を白紙で出し、エネルギーを温存した方がましでした。または、自分の得意な話題に強引に持っていき、

日頃から練習していたトピックスを書いた方が良かったかもしれません。

解答方法

数学や語彙は、5年生から7年生までの内容の中から、易しい問題から順に出題、徐々に難しくなっていく傾向があります。5年生でプナホウ校やイオラニ校を目指すのであれば、全体の3分の2まで確実に解答できれば十分です (そのためには、5年生であっても6,7年生相応の英数の学力が必要です)。それ以外の私立校を目指す場合は、全体の3分の1をしっかりと答えられれば大丈夫です。わからない問題は、あてずっぽうの解答をすることなく、どんどん飛ばす方が良いでしょう。

いずれにせよ、5年生にとって3分の1近く飛ばすことは、全く問題ありません。飛ばした問題に対する減点はありますが、間違った答えは4分の1点、減点されます。ぜひ塾の模擬試験を受けて、テストの受け方のトレーニングをしてください。読解では8つの短文に各々5問の問題が提出されます。短文は小説、科学、社会科、詩

などさまざまな分野から出題されます。その中で苦手なトピックスは、思い切って飛ばし、理解できるトピックスに専念した方が良いでしょう。

よくある失敗

わからない問題を飛ばした時、ボタンの掛け違いのように、違う解答欄にそれと知らず答えの印をつけ続けることがあります。解答欄にマークするときは、慎重にすべきです。数学の試験で、試験場には、メモ用紙が用意されていないので、全てを暗算でやった生徒がいました。これでは、勘違いや計算ミスを連発します。試験用紙にいくらでも余白があるので、できるだけ暗算を避け、図を描いたり筆算をしてケアレスミスを防ぐべきです。たった1問の間違いで、SSATのパーセンタイルが5パーセンタイル前後下がります。受験当日は、緊張した空気の中で試験を受けるので、日頃考えられないようなミスがつきものです。塾では本番さながらの雰囲気の中で模擬試験を行いますので、訓練の場としてぜひ活用してください。次の模擬試験は、9月2日 (月) Labor Dayです。